

第48回企画展

# 文学紀行 —青森県の名湯—

山の翁と一夜を語り、  
溪の湯にひたって帰るだけなのに、  
みんなの心は山の緑にしみ、  
自分の希望をたしかめて帰ってくる。

「丹羽洋岳全歌集 山霊」あとがき（中畑長四郎筆）より

ランプの宿青荷温泉 健六の湯

令和6年

令和7年

4月1日～3月21日

幸田露伴  
大町桂月  
田山花袋  
与謝野晶子  
若山牧水  
吉川英治  
井上靖  
水上勉

## 弘前市立郷土文学館

【開館時間】9:00～17:00（入館は16:30まで）

【観覧料】一般100円、小・中学生50円

（弘前市内の65歳以上、市内の小・中学生、市内の留学生、市内外の障がいのある方、ひろさき多子家族応援/スポーツ持参の方は無料）

〒036-8356 青森県弘前市下白銀町2-1（追手門広場内）

TEL 0172-37-5505 FAX 0172-36-8360

E-mail kyoudo@city.hirosaki.lg.jp

佐藤紅緑  
秋田雨雀  
葛西善蔵  
石坂洋次郎  
北畠八穂  
太宰治  
今官一  
三浦哲郎

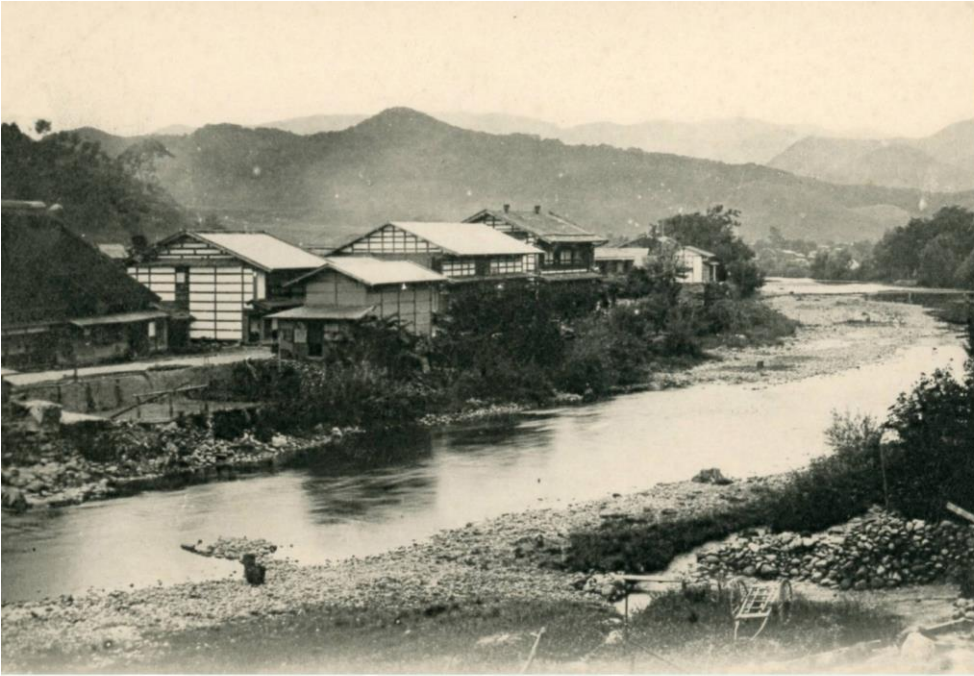
文学紀行―青森県の名湯

幸田露伴、田山花袋、若山牧水、竹久夢二……、明治以降、名だたる文人墨客が青森県の温泉地を訪れ、その魅力を詩情豊かな文章に書き綴ってきました。

滾々と湧き出る温泉、人里離れた閑静な宿、情緒あふれる街並み、得も言われぬ山水の美観・奇観……、温泉地ならではの風景が「旅人のまなざし」で情感豊かに描かれ、日ごろ見慣れた景色が新たな魅力をもつて迫ってきます。

また、青荷温泉の丹羽洋岳、大鰐温泉の増田手古奈のように温泉地に暮らした文人や、故郷から遠く離れた葛温泉を終の棲家とした大町桂月のように、「生活者のまなざし」で温泉地を描いた詩文にもまた心惹かれるものがあります。

本展は、これらの文学作品、紀行文などを通して、本州最北端・青森県の温泉地の魅力にあらためて迫るものです。



大鰐温泉 ヤマニ仙遊館より平川を望む 明治末期  
(青森県史デジタルアーカイブスより)



水上勉  
『北国の女の物語 上』  
講談社  
昭和 47 年 8 月 16 日



島木赤彦  
『歌集 水魚』  
岩波書店  
大正 9 年 6 月 15 日



幸田露伴  
『枕頭山水』  
博文館  
明治 26 年 9 月 19 日



吉川英治 文学碑拓本

吉川英治文学碑は、昭和 40 年 5 月 16 日、温川温泉に建立された。碑の表面には吉川の句「ぬる川や湯やら霧やら月見草」が、裏面には随想「ぬる川の宿」の一節が刻まれている。吉川は、昭和 3 年 9 月、温川の渓流のほとりにあった山荘に滞在している。



大町桂月 『葛温泉帖』 『冬籠帖』

『葛温泉帖』は、大町桂月が大正 12 年 10 月 15 日から翌年 2 月 12 日まで、恩師・杉浦重剛の伝記を執筆するため葛温泉で越冬した時に作られ、短歌・漢詩などに戯画を合わせた内容となっている。桂月は、大正 13 年 12 月 25 日から葛温泉で 2 度目の越冬。『冬籠帖』には、最晩年の桂月の筆から生まれた作品が収められている。